健康ホットライン

市立病院の医療コラム㉟

早期発見・早期治療を

笠間市立病院内科医（認知症担当医）　白土　綾佳

その患者さんの印象は、強烈でした。本人が診察室に入ってこなかったのですから…。待合ホールで声をかけても、プイッと背を向けてしまう拒否ぶり。感情を爆発する患者さんに一日中振り回され、疲れている家族のためにも、急いで治療をしなければ…。診察を終え、お薬を出してその日はとりあえず帰宅の途に。1か月が過ぎた先日、信じられないような変化が起きました。ニコニコして診察室に入って来たのです。激しく怒ることはなくなり、旦那さんに「いつも迷惑かけて悪いね。」と声をかけたり、夜中に家族に布団を掛けなおしたりという気遣いまで出てきたとのことでした。当院で起きた実際の症例です。

この患者さんの病名は前頭側頭葉無性型認知症です。認知症が良くなるなんてありえない、認知症は介護や福祉の領域、と多くの方がそう思っています。これまでの認知症に対する医療の実績からすればやむを得ないことですので、医療側の責任と言えます。しかし、薬の加減によっては、劇的によくなる例があることも事実です。年間2,000名以上の認知症の新患患者さんを診察し「認知症は治せる」と言い切る河野和彦医師のコウノメソッドを実践すれば、それが起こり得るのです。

早期の認知症症状は、一緒に生活されているご家族にしか気づくことはできません。物忘れが明らかなのに正常だと言ったり、怒りっぽくなるなどの性格変化や、落ち着かない、買い物のミスなどの症状があります。家族が「以前とは違う」と感じる場合には、認知症の初期である可能性が高いのです。笠間市立病院では、今年9月から『物忘れ外来』を始めました。本人がどうしても行きたくないと診察を渋る場合には、先にご家族が来院されて相談に乗ることも可能です。早期に気づいて治療を始めた方が、よい成果を上げることが出来ます。ぜひご利用ください。

笠間の歴史探訪14

笠間大町の三所神社

水戸方面から旧笠間市街に入ると、大町通り東側に石鳥居が見えてきます。その奥に鎮座するのが三所神社です。笠間の人々は、「三社さん」の名で呼んでいます。

弘治二年（一五五六）九月の「三所大明神縁起」（仁平正道家所蔵）を中心に、同社の由来を紹介します。鎌倉時代に、三所神社一帯は笠間馬場郷と呼ばれ、その一画には平安時代初期の貞観年間（八五九～八七六）に大己貴尊（大国主命）の妃三穂津姫を祀る社が鎮座していました。建長二年（一二五〇）、宇都宮氏一族の生まれの笠間城初代城主笠間時朝は、一族の氏神である宇都宮大明神（宇都宮二荒山神社）の祭神（大己貴命・事代主命の父子神、そして建御名方命）を三穂津姫社の地に勧請しました。宇都宮大明神の三神と三穂津姫の四神を祀る社殿を中央に、右手には宇都宮氏が藤原氏一族であるところから、藤原氏の祖先神天児屋根命を、左手には武家の守護神誉田別命を祭神とする八幡宮と、三つの社殿に祀り、笠間時朝は同社を笠間城および城下の鎮守としました。

同社の再建・修復は時の城主が担当しました。室町時代文明九年（一四七七）の笠間綱久による修復時の棟札、そして江戸時代の本庄宗資による元禄十年（一六九七）の再建記録が残っています。牧野氏の治世には、藩主が初めて笠間へ国入りの際に同社へ参拝するのが恒例であり、正月二日に家老が、五月と九月に給人が代参をしています。

同社の神職は、鎌倉時代末期の嘉元年間（一三〇三～〇五）に笠間氏の家臣仁平大膳正藤原正義が城主より社務職を命じられ、その後同家が代々務めているといわれます。

（市史研究員　矢口　圭二）

三所神社の本殿